

令和7年度 事業報告書



1 救護活動 P3

2 国際活動 P7

3 医療事業 P8

4 看護師養成事業 P10

5 血液事業 P11

6 救急法等の講習 P12

7 赤十字ボランティア P15

8 青少年赤十字（JRC） P16

9 広報活動 P17

10 会員の加入促進と活動資金の募集 P18

11 令和7年度一般会計歳入歳出決算報告 P20

岡山県支部 令和7年度 重点項目

災害レジリエンスの強化

全社で標準化された救護班要員研修のほか、各種訓練を他団体と連携して行うなど災害救護体制の整備・強化に努めました。

また、内閣府主催の「避難生活支援リーダー／サポーター研修」への参加や、救護資器材の取り扱い研修等を通じて災害時に活動するボランティアの育成に注力しました。

さらに、自治会・町内会組織や企業・団体に対する「赤十字防災セミナー」開催の呼びかけを強化しました。



地域ニーズを踏まえた活動の推進

赤十字が有する人的・物的資源を活用し、「地域づくり応援作業部会」を中心に、県内施設の連携強化を推進しました。

また、各施設の所在地周辺地域との連携のあり方について検討を進めました。

さらに、岡山市主催イベントにおいて、親子で避難時の持ち出し品について考える体験型プログラムを実施しました。

これらの取り組みにより、施設間の連携強化と地域住民とのつながりの深化、防災意識の向上に努めました。



持続的な活動のための経営基盤の安定化

本社、法人データ管理会社からの情報を有効活用し、応諾率が高い方を対象としたダイレクトメールによる協力依頼や企業訪問、有功会役員から有功会員への依頼など、積極的な活動資金の募集に努めました。

また、報道機関への取材依頼や SNS を活用した情報発信のほか、イベント出展により赤十字の事業を身近に感じていただく機会の充実を図るなど、赤十字活動への理解促進と支援者の拡大に努めました。



救護活動

日本赤十字社が行う救護活動は、赤十字の使命に基づいて行っており、医療救護やこころのケア、救援物資の配分、血液製剤の供給、義援金の受付など多岐にわたります。

また、災害救助法や災害対策基本法、国民保護法においては指定公共機関として、国や地方公共団体へ協力することも明記されています。

近い将来に発生が予測されている国難級の大規模地震や頻発化する気象災害など、来たるべき未曾有の人道危機に対応できるよう、平時から備えています。

令和7年度は、岡山県支部が救護班を派遣した災害等はありませんでした。

● 救護班の編成等

災害時、ただちに被災地へ出動し被災者への救護活動が行えるよう、常備救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、岡山赤十字玉野病院1個班）を編成するとともに、災害対策本部要員・DMAT 隊員・薬剤師・血液搬送要員等を任命し、「岡山県支部救護業務計画」に基づく体制を整備しました。

また、災害時における医療ニーズを把握し、関係機関と救護班の活動調整等を行う日赤災害医療コーディネートチームを3チーム編成しました。

救護員の任命状況

		日本赤十字社 岡山県支部	岡山赤十字病院	岡山赤十字 玉野病院	岡山県赤十字 血液センター
常備救護班			8個班	1個班	
	医師（人）		8	1	
	看護師長（人）		8	1	
	看護師（人）		16	2	
	主事（人）		16	2	
災害対策本部要員（人）		15	11	7	7
DMAT 隊員（人）		5	37		
薬剤師（人）			7	1	
血液搬送要員（人）					2
日赤災害医療 コーディネーター（人）			3		
日赤災害医療 コーディネートスタッフ（人）		2	8		

●救護員の研修・訓練

新たな救護員育成体系に基づく標準化された研修を実施することで、救護員のさらなる質の向上と新規要員確保を図るとともに、他機関との訓練にも積極的に参加し、連携を強化しました。

研修・訓練名	実施日	内容
救護班要員研修Ⅰ	令和7年4月19日	避難所での救護活動、災害診療記録、避難所活動机上シミュレーション等
岡山県水害対応訓練 (支部災害対策本部訓練)	令和7年5月27日	災害対策本部の設置演習
こころのケア研修	令和7年7月27日	概論、被災者へのこころのケア、こころのケア実践等
災害対策本部要員研修	令和7年8月30日	本部運営の概論、時系列活動記録実習等
救護員訓練	令和7年10月19日	広域災害救急医療情報システム(EMIS)、出発式、避難所での診療等
第5ブロック合同災害救護訓練	令和7年11月8～9日	行政・他団体との連携、医療救護所の開設・運営等
岡山県総合防災訓練	令和7年11月15日	避難所での診療及び避難所環境改善アセスメント訓練
救護員研修(応用)	令和7年12月20日	災害時における事例、現場救護所実習、救護資器材実習
岡山県地震対応訓練 (支部防災訓練)	令和8年1月22日	災害対策本部の設置演習



●被災者の支援（救援物資等）

県下での火災等による罹災者に対し、地区分区を通じて救援物資及び弔慰金をお渡ししました。

救援物資等配分の内訳

種類	交付基準	配分数
毛布	1人につき1枚	109枚
緊急セット	原則1世帯（4人分） につき1セット	51セット
バスタオル	1人につき1枚	105枚
弔慰金	死亡者1人につき 20,000円	300,000円

罹災世帯数等

区分	世帯数
火災	62世帯
避難	0世帯
その他	0世帯
計	62世帯

死亡	15人
----	-----

●義援金・救援金の受付

令和7年度における受付状況は以下のとおりです。

義援金受付状況

名称	件数（件）	金額（円）
令和6年能登半島地震災害義援金	236	12,374,321
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	95	7,344,931
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	25	1,376,090
令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	5	78,793
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	9	67,684
令和7年8月6日から的大雨災害義援金	17	134,510
令和7年台風第12号災害義援金	4	47,637
令和7年台風第15号災害静岡県義援金	10	208,631
令和7年台風第22号及び第23号災害義援金	3	30,000
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	27	1,913,736
令和7年青森県東方沖地震義援金	5	121,381

救援金受付状況

名称	件数（件）	金額(円)
海外無指定救援金	3	31,550
中東人道危機救援金	16	115,757
バングラデシュ南部避難民救援金	1	10,000
ウクライナ人道危機救援金	56	837,250
2025年ミャンマー地震救援金	18	445,343
2025年アフガニスタン地震救援金	1	10,000
2025年パキスタン洪水救援金	1	10,000

●臨時救護の実施

不特定多数の人々が集う公共的なイベント・スポーツ大会等において、参加者の安全を図るため、医師・看護師・主事で編成した救護班やボランティアを以下のとおり派遣しました。

No.	実施日	行事名	派遣者数（人）	取扱傷病者数（人）
1	令和7年8月24日	倉敷ジュニアトライアスロン大会	11	6
2	令和7年11月9日	おかやまマラソン	24	55
3	令和8年2月21日	西大寺会陽	26	14
4	令和8年2月22日	そうじゃ吉備路マラソン	12	39
計			73	114

●防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

地域ニーズを踏まえたカリキュラムを実施することで、「自助」「共助」の意識を高め、地域の災害対応力を向上させることを目的に指導者を派遣しました。

カリキュラム名	内容	件数(件)
災害への備え（講義）	地震・大雨災害などの想定被害を知り、平時の備えの重要性を理解する	17
災害エスノグラフィー	被災者の経験談を通じて、災害を追体験することで被災の具体的なイメージを理解する	4
災害図上訓練（DIG）	地域の防災マップを作成することで、防災上の資源や危険箇所を把握・理解し、個人や地域での防災対策につなげる	6
家具安全対策ゲーム（KAG）	自宅の平面図を描き、地震で起こる被害や家具の安全対策の必要性を把握・理解し、身を守る方法を検討する	10
ひなんじょ たいけん	大地震時に避難所に起こる問題等をカードゲームを通じて理解し、自助・共助の力を高める	10
大雨・台風の避難スイッチ（試行実施）	大雨・台風時のキケンを「自分ごと」としてとらえ、自分と家族の避難行動について考える	2
計		49

2

国際活動

赤十字では、国際・国内紛争による被災者への医療や食料等の救援を実施するほか、ジュネーブ条約に基づいて、戦闘に直接参加していない負傷兵や一般市民の保護にあたっています。

また、自然災害等によって被害を受けた被災地への復興支援や防災を通じた地域の基盤づくり等に取り組んでいます。

令和7年度において岡山県支部は、以下の事業を実施しました。

●モンゴル保健支援事業

多発する気象災害に加えて、経済不況による貧困、へき地での医療サービスの不足などにより、人々のいのちと健康が脅かされているモンゴルにおいて、救急法及びこころのケアの体制づくりに協力し、人々の健康増進に取り組むための資金的援助を行いました。

●インドネシア防災強化事業

災害多発国であるインドネシアに対し、災害対応能力の向上や、防災教育に精通する教職員、防災ボランティアの育成のために、資金的援助を行いました。



©インドネシア赤十字社

●アジア・大洋州給水・衛生災害対応キット整備事業

中国・四国各県支部と協働で、アジア・大洋州で洪水やサイクロンなどの災害に頻繁に見舞われる国や地域に対し、安全な飲み水の確保や清潔な簡易トイレの設置など、衛生環境を整備するための資金的援助を行いました。



© BDRCS

●「NHK 海外たすけあい」キャンペーン

世界各地で紛争や自然災害、感染症などに苦しむ人々のため、令和7年12月1日から25日の期間でNHKと共同で募金キャンペーンを実施しました。

名称	件数(件)	金額(円)
令和7年度(第43回)「NHK 海外たすけあい」	722	7,569,055

3

医療事業

岡山赤十字病院（500床）、岡山赤十字玉野病院（83床）、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム（100床）において、高度急性期医療をはじめ、慢性期医療から回復期まで特色ある医療事業を展開しています。

各施設においては、公的医療機関として、また地域の安定的な医療体制を確保するため、地域医療の連携推進を図りながら、地域からの信頼に応えた安心・安全な医療を提供しました。

●岡山赤十字病院

県南東部医療圏の中核病院として、救命救急センターとしての救急医療、地域がん診療連携拠点病院等の先進医療、基幹災害拠点病院としての災害医療・救護など、公的医療機関としての役割を担いました。

令和7年度より無痛分娩の提供を開始しました。無痛分娩は、背中から細い管を入れ、麻酔薬を使用して陣痛の痛みを和らげる分娩方法です。

また、新聞や雑誌で頻繁に取り上げられている「ロボット手術」は柔軟で緻密な手術が行える利点を活かし、令和5年1月から開始し約2年半後の令和7年7月に100例に到達することができました。

令和7年度の患者数は昨年度と比較して入院は4.2%増、外来延べ数は0.2%減、外来1日平均数は0.5%増となりました。

患者数(人間ドック・健診を除く)

入院	延患者数（人）	146,313
	1日平均（人）	400.9
外来	延患者数（人）	257,608
	1日平均（人）	1,068.9



●岡山赤十字玉野病院

内科・リハビリテーション科・皮膚科・整形外科に加え、専門外来として呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内科、肝臓内科、脳卒中内科、心臓血管外科において診療を行い、岡山赤十字病院との連携により急性期及び慢性期の一貫性のある医療を提供しています。

地元の方々により当院を身近に感じてもらうため、院内で糖尿病週間に合わせたイベントや骨粗鬆症啓発イベントを開催し、多くの方々に参加していただきました。

また、近隣の医療機関や介護施設からの紹介による入院のさらなる推進を図るとともに終末期医療を希望する患者の受け入れや、併設する老人保健施設との協力による在宅復帰を目的とした在宅医療の推進にも努めました。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	患者数（人）	24,896
	1日平均（人）	68.2
外来	患者数（人）	17,152
	1日平均（人）	71.2



●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

病状が安定した高齢者等の心身の自立を支援し、介護機能を持った包括的ケアサービスを提供する役割を担い、高齢者等の在宅復帰を目指しています。

このため、ショートステイや通所リハビリテーションを提供し、併設する居宅介護事業所での介護保険制度におけるケアマネジメントにより、家族・介護者の介護負担軽減に努めるとともに、利用者のニーズに沿ったサービス提供を行いました。

また、令和4年度より在宅復帰超強化型施設へと移行しており、令和7年度も引き続き継続しています。

利用者数

入所	入所者数（人）	31,373
	1日平均（人）	85.9
通所	通所者数（人）	5,424
	1日平均（人）	22.4



●「赤十字健康講座」等の開催

広く県民の健康維持・増進を図ることを目的に、赤十字各施設が連携し、医師や看護師等が岡山赤十字病院で講演を行う「赤十字健康講座」を開催しています。令和7年度は6回開催しました。

なお、I型糖尿病の児童・生徒に低血糖症状等が出た際に教職員が適切に対処できることを目的とした「小児のための研修」を岡山赤十字病院と岡山県教育委員会等が連携し、集合とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。



4

看護師養成事業

●岡山赤十字看護専門学校

赤十字の理念である「人道」について深く学び、豊かな人間性と高い倫理観を備えた赤十字看護師を養成します。

また、科学的な根拠に基づいて看護を実践できる確かな思考力と判断力を育成することを目指しています。看護実践の場が多岐にわたる昨今、保健・医療・福祉の分野をはじめ、地域とのつながりを深めながら災害救護の現場で活躍できる基礎的能力を習得できるよう支援しました。

学生数

令和8年3月31日現在

1年生（人）	25
2年生（人）	28
3年生（人）	38
計（人）	91



5

血液事業

岡山県赤十字血液センターでは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者のため、医療機関に供給する血液事業を展開しています。採血業者及び製造販売業者としての責務である血液製剤の安全性の確保・向上及び安定供給の確保並びに献血者の保護に努め、確実な血液事業の推進に取り組んでいます。

令和7年度における岡山県の献血者数は、73,484人（対前年度比98.6%）、前年度に比べ1,058人減少しました。

献血種類別では、400mL 献血者が48,930人（対前年度比97.2%）、200mL 献血者が528人（対前年度比104%）、成分献血者が24,026人（対前年度比101%）でした。

また、令和8年1月5日以降、献血カードの新規発行・更新が終了となったことから、Web 会員サービス「ラブラッド」アプリのさらなる推進を図り、不足時の依頼や事前予約及び事前問診への協力を促し、滞在時間の短縮とともに献血者へのサービス向上に努めています。

性別・献血種類別献血者数

献血種類	区分			割合（%）
	男	女	計	
200mL 献血	185	343	528	0.7
400mL 献血	36,779	12,151	48,930	66.6
血漿成分献血	9,961	5,292	15,253	20.8
血小板成分献血	8,248	525	8,773	11.9
計	55,173	18,311	73,484	100.0

年齢別献血者数

年齢	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
献血者数（人）	2,828	9,148	9,464	16,280	35,764	73,484
割合（%）	3.8	12.4	12.9	22.2	48.7	100.0

●献血者確保対策事業

- 普及啓発活動
- 広報活動
- 献血推進組織の育成
- 若年層献血推進対策
- 献血ルームの活性化

●その他の事業

- 骨髄ドナー登録の推進
- 医療機関との連携強化
- 特殊製剤国内自給向上対策事業



6

救急法等の講習

日常生活での事故防止や手当てなど、「健康」「安全」に関する知識・技術を普及するため、地域や学校、企業・団体などに指導員を派遣しました。

また、指導体制を強化することを目的に指導員スキルアップ研修を実施するとともに、指導員養成講習を開催しました。

●救急法

病気やけが、災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの知識や技術を普及する講習です。

急病人やけが人の発生に備え、胸骨圧迫の方法や AED の使い方を学ぶ一次救命処置などの講習を実施しました。



	種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法	基礎講習	29	701	701
	救急員養成講習	11	266	265
	短期講習	198	6,635	
	計	238	7,602	966

●水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水の事故からいのちを守るための知識や技術を普及する講習です。

思いがけない事故に遭った際、適切に対応できるよう、児童・生徒を中心に着衣泳等を行いました。



	種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	1	13	9
	救助員Ⅱ養成講習	1	8	8
	短期講習	7	156	
	計	9	177	17

●幼児安全法

子どものいのちを守るために必要な接し方や、事故の予防、手当・看病の方法を普及する講習です。

少子化の時代に子どもを社会全体で育むうえで、万が一の事故に備えるため、幼稚園や保育園職員、家族などを対象に乳幼児の一次救命処置等の講習を実施しました。

また、新たに13名の指導員を養成しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習	3	34	32
	短期講習	73	1,717	
計		76	1,751	32

●健康生活支援講習

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、健康の維持・増進と高齢期の自立を促す方法を普及する講習です。

高齢化が進む中でフレイルが社会問題となっており、体操動画を活用したフレイル予防等の健康増進を図る短期講習や支援員養成講習を開催しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
健康生活支援講習	支援員養成講習	4	74	74
	短期講習	83	2,535	
計		87	2,609	74

●健康生活支援講習を柱とした地域包括ケアの推進

少子高齢社会が進む中、子どもから高齢者まで誰もが安心して幸せに暮らすために、「自助」意識の醸成と地域で支え合う「互助」など、人と人がつながる地域づくりが課題となっています。

地域住民一人ひとりが、生きがいを感じられる社会を共に創っていくことを目指して、いのちと健康、尊厳を守る赤十字講習等を活用し、ボランティアの協力を得ながら他団体との連携・協働の強化を図りました。

昨年度に引き続き、フレイル予防の一つとして、当支部にて制作した「クロス体操」動画を用いて地域の方の健康維持・増進に努めました。



7

赤十字ボランティア

赤十字ボランティアは、会員の募集、救護活動、献血の推進等さまざまな赤十字事業の支援はもとより、地域のニーズに応じた社会活動を行っており、行政が推進する地域福祉の一端を担っています。

●防災ボランティアの体制整備

長期にわたる幅広い災害ニーズに対応し、被災者に寄り添った支援ができるよう、「災害支援ネットワークおかやま」「岡山県災害福祉支援ネットワーク推進会議」などの防災関連団体との定期的なミーティングに参加することで連携を深めるとともに、総社市社会福祉協議会が設置する「ボランティアセンター運営委員会」に参画し、協働を図りました。

また、内閣府がモデル研修として実施した「避難生活支援リーダー／サポーター研修」に参加し、他業種・多職種と災害時の支援に関する課題等について共有しました。

●赤十字奉仕団の育成・活動促進

地域に根ざした活動を行う赤十字奉仕団員を対象に、奉仕団基礎研修会を開催しました。奉仕団についての理解を深めるとともに、赤十字が普及・推進する講習や赤十字防災セミナーを体験し、今後の奉仕団活動のきっかけづくりや団員同士の連携を強化しました。

また、「中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会」に3名が参加し、大阪・関西万博の赤十字パビリオンの見学等を通して、赤十字の歴史や人道支援の活動などを学ぶとともに、他県のボランティアとの交流を図りました。

種別	活動内容
地域赤十字奉仕団	● 地域における活動資金の募集 ● 地域における防災訓練やイベントへの参加 ● 地域福祉等の活動
青年赤十字奉仕団	● 街頭募金活動 ● 病院における患者支援活動 ● 献血推進活動
特殊赤十字奉仕団	● 災害時の救護活動支援 ● 視覚障がい者支援のための点訳教室 ● 水辺の安全啓発活動



8

青少年赤十字（JRC）

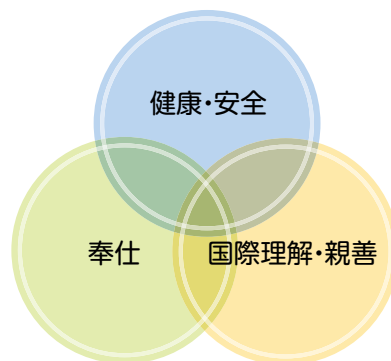
青少年赤十字（JRC）は、子どもたちが「人のいのちと健康、尊厳」を大切に
する人道的価値観を身につけ行動できるようになることを目指して、教育現場におい
て教員等が指導者となり活動を展開する事業です。

その活動は、「気づき・考え・実行する」という自主性に基づき、世界の青少年
赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や各学校の取
り組みに合わせた活動を展開しています。

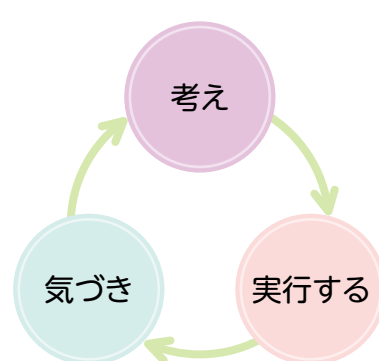
加盟校からの要望による防災学習や登録式などを実施したほか、県内の高校生メ
ンバーを対象に、リーダーとしての精神を学ぶリーダーシップ・トレーニング・センタ
ーを1泊2日で行いました。

また、中華人民共和国から高校生を招き、県内の JRC メンバーと交流を行うなど、
意見交換を通じて相互理解を深めました。

青少年赤十字の実践目標



青少年赤十字の態度目標



青少年赤十字の加盟状況

種別	加盟校 (園) 数	児童・生徒数 (人)			委員会・クラブ等の グループ数
		男	女	計	
保育所 (園)	12	547	557	1,104	0
認定こども園	6	304	306	610	0
小学校	12	1,646	1,524	3,170	0
中学校	12	1,393	1,433	2,826	7
高等学校	27	2,586	2,225	4,811	19
中等教育学校	1	136	69	205	1
特別支援学校	2	136	57	193	0
計	72	6,748	6,171	12,919	27



赤十字の理念や活動内容、活動資金の使途について一人でも多くの方々にご理解いただけるよう、広報活動を展開しました。

赤十字の活動を広く伝えるため、テレビ、新聞などに取り上げられるよう報道機関に対し積極的にプレスリリースを発信するとともに、若年層に向けた情報発信を推進するため SNS の活用にも注力しました。

また、県下のあらゆる地域における広報活動で活用いただけるよう、地区分区に対し活動紹介パネルの貸し出しを行いました。

● 広報資材

- 広報紙「赤十字おかやま」の発行
- 地区分区、支援者等への「赤十字 NEWS」の配布
- 県下全域でのポスター掲示
- 会員加入促進のためのリーフレット、チラシの配布
- 事業計画書・事業報告書の配布
- 地区分区等への活動紹介パネルの貸し出し



● メディア広報

- CM 放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）
- プレスリリースの発信による取材・報道
- 有功会員の協賛による赤十字運動月間における新聞広告の掲載
- 新聞への記事広告の掲載
- ホームページや SNS（Facebook、Instagram、YouTube）を活用した情報発信



● 広報イベント

- 市町村や団体等が主催するイベントへの赤十字ブースの出展（緊急車両やパネルの展示、キッズ救護員体験コーナーの設置など）
- 地域のシンボルである建造物を世界赤十字デーに合わせライトアップする「レッドライトアッププロジェクト」の実施

● 岡山赤十字フェスティバル

医療や健康、介護、防災など赤十字の特色を活かし、赤十字に親しんでいたため、「岡山赤十字フェスティバル」を開催し、1,300人を超える方々にお越しいただきました。

会員の加入促進と活動資金の募集

地域の方々が安全に安心して暮らしていくために展開する赤十字の各種活動は、赤十字会員や赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金により支えられています。

5月の「赤十字運動月間」を中心に、地区分区を通して赤十字会員への加入勧奨を積極的に行いました。

また、遺贈・相続財産による寄付のためのセミナー開催やクレジットカード決済等による活動資金募集に努めたほか、ダイレクトメールの協力依頼を強化しました。

●活動資金の件数及び実績額

令和8年3月31日現在

地区分区	件数(件)	実績額(円)
岡山市地区本部	43,346	32,724,786
倉敷市地区	42,806	31,182,200
津山市地区	8,121	8,013,950
玉野市地区	7,807	5,733,300
笠岡市地区	9,450	6,647,000
井原市地区	7,833	4,791,756
総社市地区	10,006	8,800,400
高梁市地区	5,744	4,615,700
新見市地区	3,141	2,906,339
備前市地区	3,283	2,780,100
瀬戸内市地区	608	1,354,870
赤磐市地区	4,476	3,874,360
真庭市地区	7,511	5,841,500
美作市地区	4,925	3,927,500
浅口市地区	4,795	3,834,813
和気町分区	2,700	2,097,800
早島町分区	817	522,300
里庄町分区	30	1,279,800
矢掛町分区	3,385	3,136,000
新庄村分区	163	140,000
鏡野町分区	1,709	1,597,500
勝央町分区	1,749	1,609,000
奈義町分区	814	1,073,500
西粟倉村分区	347	308,000
久米南町分区	940	745,500
美咲町分区	2,243	1,575,700
吉備中央町分区	1,205	1,021,600
支部扱い	6,236	93,724,645
計	186,190	235,859,919

※支部扱い：企業訪問・ダイレクトメール・寄付つき自販機・クレジットカード決済等

●全国赤十字大会

令和7年5月13日に東京都渋谷区の明治神宮会館において「全国赤十字大会」が開催され、岡山県より24人が参会しました。

●日本赤十字社による表彰

多額の活動資金にご協力いただいた方々や赤十字事業への功労者に対する、日本赤十字社による表彰制度があります。

銀色有功章、金色有功章、社長感謝状については、令和7年9月11日に岡山県支部で開催した「日本赤十字社有功章等伝達式」において、伊原本支部長から受章者に伝達を行いました。

令和7年度の受章者数は以下のとおりです。

種別及び受章者数

種別		受章者数
支部長表彰状	個人	38人
	法人	50社
支部長感謝状	個人	4人
	法人	11社
銀色有功章	個人	14人
	法人	15社
金色有功章	個人	7人
	法人	17社
社長感謝状	個人	2人
	法人	22社

●国による表彰

多額の活動資金にご協力いただいた方々に対し、国による表彰の伝達を行いました。
令和7年度の受章者数は以下のとおりです。

種別及び受章者数

種別		受章者数
厚生労働大臣感謝状	個人	2人
	法人	0社
紺綬褒章	個人	0人
	法人	0社

●遺贈・相続財産による寄付の推進

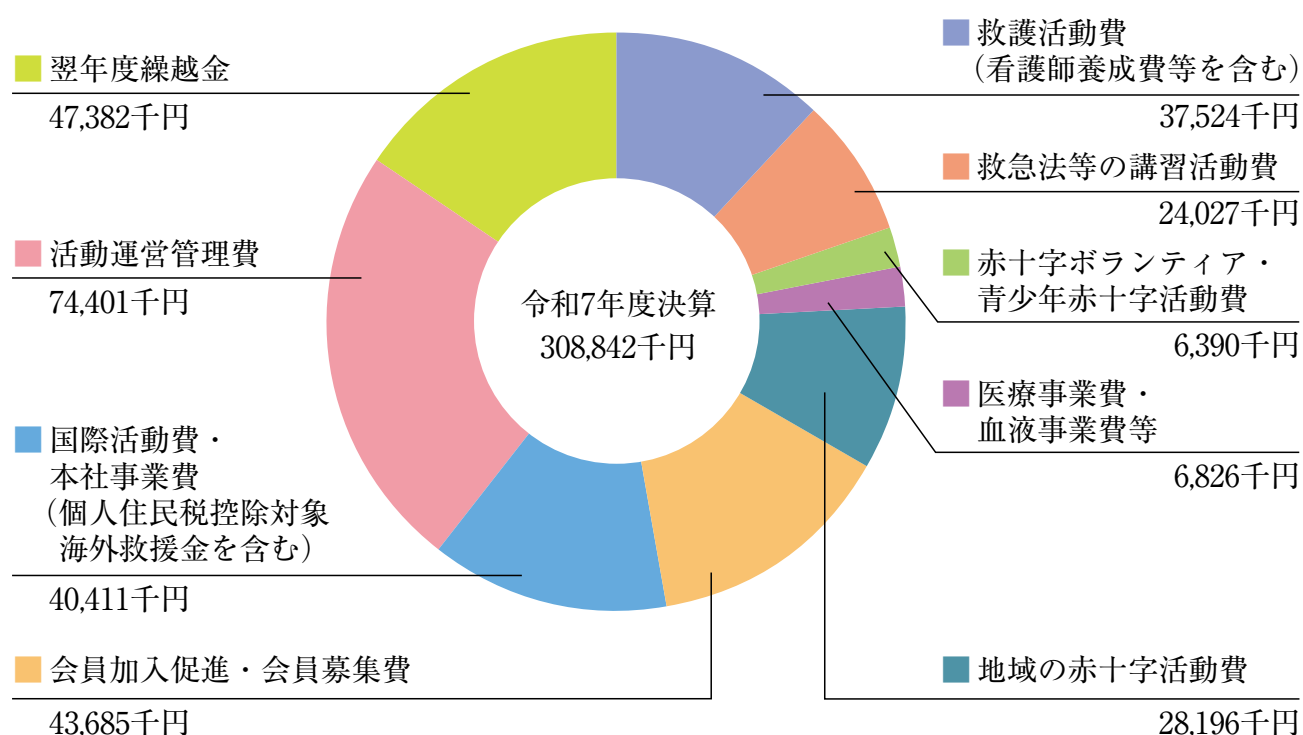
令和7年12月21日に「赤十字終活セミナー」を開催しました。本セミナーでは、近年関心が高まっている「遺贈」や「相続財産による寄付」について学ぶ機会として実施し、定員を上回る多くの方々にご参加いただきました。

また、日本赤十字社が「遺贈」や「相続財産による寄付」の受け入れ団体であることを広く周知するため、山陽新聞に4回、広告を掲載しました。

令和7年度一般会計歳入歳出決算報告

(単位：千円)

科 目	決算額
活動資金（会費および寄付金）収入	235,860
個人住民税控除対象海外救援金	2,362
本社交付金収入	5,581
資金繰入金収入等	6,138
各種講習教本代等雑収入	2,074
前年度繰越金	56,827
歳 入 計	308,842
救護活動費（看護師養成費等を含む）	37,524
救急法等の講習活動費	24,027
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	6,390
医療事業費・血液事業費等	6,826
地域の赤十字活動費	28,196
会員加入促進・会員募集費	43,685
国際活動費・本社事業費（個人住民税控除対象海外救援金を含む）	40,411
活動運営管理費	74,401
翌年度繰越金	47,382
歳 出 計	308,842



名 簿

日本赤十字社役員名簿（岡山県支部選出）

令和8年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
理事	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	令和6年4月1日
代議員	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	平成18年3月1日
代議員	松田 久	岡山商工会議所 会頭・ 両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
代議員	松山 正春	岡山県医師会 会長	平成31年2月14日
代議員	加藤 貞則	株式会社中国銀行 取締役頭取	令和6年6月27日
代議員	晝田 眞三	ヒルタ工業株式会社 代表取締役会長	令和6年10月16日

日本赤十字社岡山県支部役員名簿

令和8年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
支部長	伊原木 隆太	岡山県知事	平成24年11月12日
副支部長	晝田 眞三	ヒルタ工業株式会社 代表取締役会長	令和6年10月16日
副支部長	栗山 康彦	岡山県市長会 会長・浅口市長	令和7年1月24日
監査委員	平松 卓雄	前岡山県社会福祉協議会 常務理事	平成30年10月20日
監査委員	山本 哲也	岡山県農業信用基金協会 専務理事	令和7年2月4日
参与	辰巳 秀爾	岡山県保健医療部長	令和7年7月8日
参与	千田 元久	岡山県保健医療部次長	令和6年4月1日

日本赤十字社岡山県支部評議員名簿

令和8年3月31日現在

No.	氏名	選出地区	公職名	就任年月日
1	大森 雅夫	岡山市	岡山市長	平成25年10月9日
2	塩見 楨子	〃	岡山市連合婦人会 会長	平成25年4月1日
3	内田 通子	〃	岡山市社会福祉協議会 会長	平成22年10月26日
4	藤原 繁利	〃	岡山市社会福祉協議会 副会長	平成29年8月14日
5	伊東 香織	倉敷市	倉敷市長	平成20年5月19日
6	中桐 泰	〃	倉敷市社会福祉協議会 会長	平成29年4月1日
7	内田 浩二	〃	倉敷市社会福祉協議会 副会長	令和2年1月18日
8	武則 啓子	〃	倉敷市婦人協議会 会長	令和5年9月8日
9	光井 聡	津山市	津山市長	令和8年2月25日
10	柴田 義朗	玉野市	玉野市長	令和3年11月22日
11	栗尾 典子	笠岡市	笠岡市長	令和6年4月24日
12	大舌 勲	井原市	井原市長	平成30年9月16日
13	片岡 聡一	総社市	総社市長	平成19年12月4日
14	石田 芳生	高梁市	高梁市長	令和6年10月24日
15	石田 實	新見市	新見市長	令和6年12月3日
16	長崎 信行	備前市	備前市長	令和7年4月24日
17	黒石 健太郎	瀬戸内市	瀬戸内市長	令和7年6月30日
18	前田 正之	赤磐市	赤磐市長	令和7年4月17日
19	太田 昇	真庭市	真庭市長	平成25年4月24日
20	萩原 誠司	美作市	美作市長	平成26年3月30日
21	栗山 康彦	浅口市	浅口市長	平成22年4月23日
22	太田 啓補	和気町	和気町長	令和4年4月16日
23	佐藤 博文	早島町	早島町長	令和5年10月11日
24	赤木 功	里庄町	里庄町長	令和8年3月31日
25	山岡 敦	矢掛町	矢掛町長	令和4年5月20日
26	小倉 博俊	新庄村	新庄村長	平成26年9月8日
27	瀬島 栄史	鏡野町	鏡野町長	令和7年4月10日
28	水嶋 淳治	勝央町	勝央町長	平成23年9月12日
29	奥 正親	奈義町	奈義町長	平成31年2月15日
30	青木 秀樹	西栗倉村	西栗倉村長	平成23年9月12日
31	片山 篤	久米南町	久米南町長	平成28年7月24日
32	青野 高陽	美咲町	美咲町長	平成30年12月9日
33	山本 雅則	吉備中央町	吉備中央町長	平成24年10月24日
34	松田 久	支部長	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
35	松田 正己	〃	株式会社山陽新聞社 代表取締役会長	平成25年2月14日
36	野崎 泰彦	〃	岡山県経営者協会 会長	令和4年2月14日
37	物部 一宏	〃	R S K山陽放送株式会社 代表取締役社長	令和6年6月27日
38	三宅 啓一	〃	株式会社大本組 代表取締役社長	令和3年4月1日
39	田村 正敏	〃	岡山県商工会連合会 会長	令和3年5月30日
40	大西 泰子	〃	岡山県婦人協議会 会長	平成30年5月28日
41	梶原 美砂子	〃	岡山県商工会議所女性会連合会 特別顧問	平成10年2月14日

地域赤十字奉仕団名簿

令和8年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	分団数	班数	団員数(人)		
							男	女	計
1	岡山市赤十字奉仕団	昭和21年12月6日	塩見 楨子	平成25年4月1日	33	424	0	6,280	6,280
2	岡山市御津赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	齊藤 節子	令和3年4月1日	1	6	0	139	139
3	倉敷市倉敷赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	武則 啓子	令和4年5月1日	0	0	0	40	40
4	倉敷市児島赤十字奉仕団	平成11年4月1日	中村 榮子	平成31年4月1日	0	6	0	50	50
5	倉敷市玉島赤十字奉仕団	昭和31年4月1日	瀧澤 英子	平成19年4月1日	1	0	0	20	20
6	津山市赤十字奉仕団	昭和39年5月1日	市村 道恵	令和4年6月30日	0	0	0	24	24
7	玉野市赤十字奉仕団	昭和32年4月1日	平木 由美	令和4年2月16日	0	0	11	6	17
8	笠岡市赤十字奉仕団	昭和42年4月1日	吉岡 祥子	平成27年4月25日	4	4	0	96	96
9	井原市赤十字奉仕団	昭和32年1月1日	上野 寛	令和4年4月20日	0	13	690	151	841
10	総社市赤十字奉仕団	昭和32年4月10日	土屋 博子	令和7年6月17日	7	0	0	350	350
11	高梁市赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	田村 順子	平成30年4月27日	3	0	0	233	233
12	高梁市成羽町赤十字奉仕団	昭和38年9月6日	渡邊 ありさ	令和6年4月1日	1	4	0	104	104
13	高梁市川上町赤十字奉仕団	昭和44年10月6日	難波 眞琴	令和6年4月8日	0	0	8	87	95
14	新見市赤十字奉仕団	昭和31年12月1日	立花 久恵	令和6年4月1日	0	0	0	29	29
15	新見市大佐赤十字奉仕団	平成14年12月17日	平田 国子	平成19年4月26日	0	0	7	24	31
16	新見市神郷赤十字奉仕団	平成19年4月1日	杉本 千恵子	令和2年4月1日	1	1	2	130	132
17	新見市哲多町赤十字奉仕団	昭和51年2月20日	中山 博文	令和6年5月22日	1	3	7	41	48
18	新見市哲西町赤十字奉仕団	平成14年4月22日	浅井 郁三	令和3年11月1日	0	0	20	50	70
19	備前市赤十字奉仕団	平成12年7月12日	一井 峯子	令和7年4月1日	7	0	0	139	139
20	赤磐市赤坂赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	小西 清美	平成24年4月1日	1	1	0	75	75
21	美作市作東赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	山本 文子	平成15年4月1日	1	2	0	58	58
22	浅口市鴨方赤十字奉仕団	昭和31年6月1日	筒井 由紀子	平成28年4月1日	0	0	0	101	101
23	和気町赤十字奉仕団	昭和46年12月20日	山崎 孝江	令和7年4月1日	1	1	0	10	10
24	早島町赤十字奉仕団	平成14年1月8日	河田 智子	平成18年4月1日	1	1	0	45	45
25	里庄町赤十字奉仕団	昭和28年4月10日	山田 恵津子	平成20年4月1日	0	14	0	495	495
26	勝央町赤十字奉仕団	昭和32年9月1日	檜尾 富佐子	令和4年12月1日	1	1	17	17	34
27	美咲町赤十字奉仕団	平成17年3月22日	大西 泰子	平成17年3月22日	1	3	0	370	370
28	久米南町赤十字奉仕団	昭和59年4月1日	木多 敏江	令和6年4月1日	2	2	0	91	91
合計					67	486	762	9,255	10,017

青年赤十字奉仕団名簿

令和8年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山赤十字看護専門学校学生奉仕団	昭和46年2月16日	小林 柚結	令和7年4月1日	3	88	91
2	川崎医療福祉大学学生赤十字奉仕団 R.C.Y.Will	平成3年12月15日	本田 弥海	令和7年4月1日	7	57	64
合計					10	145	155

特殊赤十字奉仕団名簿

令和8年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県赤十字点訳奉仕団	昭和42年7月15日	宇津木 順一郎	昭和46年7月15日	4	15	19
2	岡山ライフセービング赤十字奉仕団	平成11年6月8日	熊澤 一彦	平成30年5月19日	38	8	46
3	岡山県青少年赤十字賛助奉仕団	平成16年4月20日	難波 宏明	令和3年4月1日	30	3	33
4	岡山赤十字災害支援奉仕団	令和2年5月8日	山本 松美	令和2年5月8日	49	20	69
合計					121	46	167

岡山県赤十字有功会役員名簿

令和8年3月31日現在

役職名	氏名	公職名
名誉会長	池田 厚子	
会長	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長
副会長	松田 久	両備ホールディングス株式会社 取締役副会長
副会長	永山 久夫	岡山プラザホテル株式会社 代表取締役会長
副会長	恵谷 龍二	株式会社ケイコーポレーション 代表取締役社長
会計監査	平田 啓子	西日本株式会社 代表取締役
会計監査	平松 晃弘	平松エンタープライズ株式会社 代表取締役社長
理事	全本 親民	株式会社ソフィア 代表取締役
理事	高木 晶悟	株式会社トマト銀行 取締役社長
理事	千原 行喜	岡山県パチンコ・パチスロ業協同組合 理事長
理事	高田 美紀子	岡山商工会議所女性会 会長
理事	尾崎 茂	菅公学生服株式会社 代表取締役社長
理事	三宅 啓一	株式会社大本組 代表取締役社長
理事	山本 総一	株式会社中国銀行 取締役専務執行役員
理事	物部 一宏	R S K 山陽放送株式会社 代表取締役社長
理事	久山 哲哉	岡山県貨物運送株式会社 取締役総務部長
顧問	岡崎 彬	岡山ガス株式会社 代表取締役会長
顧問	大原 謙一郎	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 理事・会長
顧問	松田 正己	株式会社山陽新聞社 代表取締役会長
顧問	江國 成基	株式会社天満屋 常勤監査役
幹事	豊田 和典	日本赤十字社岡山県支部 事務局長



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部